

32 『トンガリぼうしの魔法つかい②／海賊ハックのちようせん』成井豊

○ジャンル／ファミリー・オペレッタ  
○ストーリー／ケーキ屋のプリンさんは、実は魔法つかい。小学6年のツヨシは水泳が苦手、5メートルしか泳げない。水泳を練習するため、家族みんなで海に行く。ツヨシのパパに誘われ、プリンさんも一緒に行くことに。ハックという男が営む海の家「海賊屋」で食事をしていて、ツヨシが姿を消す。プリンさんとパパは探しに行く。ハックは残ったママ・トラコ・クマコに「金を出せ」と言う。ハックは本物の海賊だった……。

○出演者／男8＋女4＋2 計 12＋2  
○上演時間／90分

登場人物

ケーキ屋プリンさん  
海賊ハック  
ハックの子分たち  
ツヨシ（小学6年）  
パパ  
ママ／人魚の女王  
トラコ（中学2年）  
クマコ（中学1年）  
水族館館長のマンボウさん  
副館長のトビウオさん  
トビウオさんの部下たち  
カメの亀吉

魚たち／人魚たち／コウモリたち

遠くから、教会の鐘の音が聞こえてくる。あたりは次第に暗くなっていき、やがて夜の闇に閉ざされる。月が昇る。ヨーグルト・キャンディーのように、白くて大きな満月。その光に照らされて、六つの白い影が現れる。白いマントに白いトンガリぼうし。トンガリぼうしの魔法つかいたちである。

――――M1「トンガリぼうしの魔法つかい」

魔法つかいたち

白い月が昇ったら

窓を開けて 夜空を見上げて

ほら トンガリぼうしが通り過ぎる

悲しい寝顔の女の子には

そっと笑顔の魔法をかける

私は月の魔法つかい

トンガリぼうしの魔法つかい

魔法つかいの一人が、トンガリぼうしをとって、お辞儀をする。この物語の主人公、プリンさんである。

プリンさん

みなさん、こんにちは。私はトンガリぼうしの魔法つかい。子供たちに

魔法つかいたち

は、プリンさんと呼ばれてます。みなさんはプリンが好きですか？私  
は大好き。もちろん食べるのも好きだけど、自分で作って、誰かに食べ  
てもらう方がもっと好き。だから私は、昼間はケーキ屋さんをやってい  
るんです。でも、夜になって月が昇ると、このぼうしをかぶって、空へ  
飛び立ちます。困っている人を助けるために。私の魔法で、一人でも多  
くの人が幸せになってくれたら、私は幸せ。月は、真っ暗な夜を少しで  
も明るくしようと、地上に光を注いでいます。私も月のように、困って  
いる人を明るくしたいんです。

青い屋根を飛び越えて  
忘れた夢 届けに行こう

さあ トンガリぼうしが舞い降りる

ひとりぼっちの男の子には

楽しいお話 聞かせてあげる

私は月の魔法つかい

トンガリぼうしの魔法つかい

プリンさん

さてさて。みなさんは、海へ行ったことはありますか？ 行ったことのある人、手を挙げて（と手を挙げる）。へえ、こんなにたくさんいるんだ。どうもありがとう（と手を下ろす）。実を言うと、私もこの前、海へ行ってきたんです。私の街に住んでいる、ツヨシくんと一緒に。ツヨシくんは小学校6年生の男の子で、海へ行くのは初めてでした。どうして初めてだったかと言うと、ツヨシくんは海が嫌いだったのです。どう

して嫌いだったかと言うと……いけない。こうして私が話をするより、実際に会ってもらった方が早いわね。それじゃ、紹介しましょう。私の友だちの、ツヨシくんです。

魔法つかいたちが去る。

———  
M 2 「海へ行く夢」 (演奏のみ)

魚たちがやってくる。海の中を自由に泳ぎ、海の上を元気に飛び跳ねる。そこへ、ツヨシがやってくる。パジャマを着て、枕を持っている。魚たちをうらやましそうに見つめている。魚たちがツヨシを海の中へ誘う。ツヨシは首を横に振る。魚たちがツヨシの手を引く。ツヨシは海の中へ落ちる。ツヨシがおぼれる。魚たちはツヨシを助けようと近づく。しかし、ツヨシがもがくので助けられない。そこへ、パパがやってくる。魚たちは逃げ去る。

パパ　　おい、ツヨシ。  
 ツヨシ　もうダメだ！ おぼれる！（ともがく）  
 パパ　　こら、ツヨシ。こんな所で何をしてるんだ。（とツヨシの肩をつかむ）  
 ツヨシ　あれ？（と周囲を見回す）  
 パパ　　ここはデイスコじゃないんだぞ。家の中でダンスを踊るのはやめなさい。  
 ツヨシ　違うよ、パパ。僕は夢を見てたんだ。  
 パパ　　夢って、どんな夢だ？  
 ツヨシ　海へ行く夢だよ。僕が浜辺に立ってたら、魚が「一緒に泳ごう」って言ったんだ。  
 パパ　　魚が日本語をしゃべったのか。なんて賢い魚だ。

ツヨシ

僕は「イヤだ」って言ったのに、無理やり海の中へ落とされたんだ。それで僕、おぼれちゃって。

パパ

ツヨシは水泳が苦手なのか？

ツヨシ

体育は好きだけど、水泳だけはダメなんだ。まだ5メートルしか泳げない。

パパ

6年生で5メートルはまずいな。

ツヨシ

パパは6年生の時、何メートル泳げた？

パパ

1メートル。

ツヨシ

え？今、なんて言った？

パパ

いや、その、パパはツヨシと違って、水泳が得意だったんだ。だから、

ツヨシ

1万メートルは楽に泳げたぞ。

パパ

本当？

ツヨシ

ツヨシにはまだ話してなかったっけ？

パパ

パパは6年生の時、イルカと競争して勝ったんだ。あの時のパパの泳ぎ、ツヨシにも見せてあげたかったな。

そこへ、ママ・トラコ・クマコがやってくる。

ママ

パパ、今の話は本当？

ママ

今の話って？

ママ

パパは水泳が得意だったって話よ。

ママ

ママは私を疑うのか？

別に疑ってるわけじゃないけど、私たち、結婚してから一度も海へ行っ



ママ      パパ      クマ      トラ      ママ      パパ      ママ      パパ      ママ      パパ      ママ      パパ      全員      ママ

北の海は白く凍り 波も荒い 風も荒い  
僕とイルカは氷につかまり ぶるぶる震えてた  
ふと目を開ければ たくさんの ペンギンたちに 囲まれてた  
もう一度行きたい あの海へ行きたい イルカと一緒に  
イルカの背中に乗って 僕は海を渡った  
イルカの背中に乗って 地球を一周してきた

そして次の日から、パパはこう呼ばれるようになったんだ。「イルカに乗った少年」てね。

本当に本当？

本当に本当さ。信じられないなら、イルカに聞いてみればいい。

そうか。イルカに聞いてみればいいのか。

どうやって？

海へ行くのよ。家族みんなで。

今から？

そうよ。今日は天気もいいし、おまけに土曜日じゃない。今から出かければ、2日も泳げるわ。トラコとクマコも行きたいでしょう？

行きたい行きたい。

私、パパが泳ぐところを見てみたい。

でも、パパはもう何年も泳いでないんだ。もしかしたら、泳ぎ方を忘れてちゃってるかもしれないな。

海に入れば、すぐに思い出すわよ。

パパ  
ママ

でも、もう年だし。  
私はツヨシのためを思って言ってるのよ。ツヨシは水泳が苦手でしょう？  
でも、パパに教えてもらえば、きっと得意になるわ。

ツヨシ  
ママ

それは無理だよ。  
どうして？

僕は水が怖いんだ。プールにだって入りたくないのに、海になんか入れるわけないよ。

パパ  
ママ

ツヨシもこう言ってることだし。  
だから、パパにお手本を見せてほしいのよ。さあ、みんな。海へ出かける準備をしましょう。急いで水着を持ってきなさい。

ママ・トラコ・クマコ・ツヨシが水着を取りに行く。

パパ

これは困ったことになったぞ。

そこへ、プリンさんがやってくる。ケーキを持っている。

プリンさん

こんにちわ、パパさん。ママさんはいますか？

パパ

こんにちわ、プリンさん。ちょうどいいところへ来てくれました。

プリンさん

いいところって？

パパ

つかぬことをお聞きしますが、プリンさんは、水泳が得意ですか？

プリンさん

得意ってほどじゃないけど、泳ぐのは好きですよ。

パパ

そうですか。大好きですか。実は、プリンさんにお問い合わせがあるんです。

プリンさん

私に、水泳を教えてくださいませんか？

パパ

もしかして、パパさんは泳げないんですか？

プリンさん

泳げることは泳げるんですが、どんなに一生懸命泳いでも、1メートル

プリンさん

しか進まないんです。

プリンさん

1メートルじゃ、泳げることにはなりませんよ。

プリンさん

私たち家族は、これから海へ行くことになったんです。もしよかったら、

プリンさん

プリンさんも一緒に行ってくださいませんか？

プリンさん

私も一緒に？

プリンさん

海に着いたら、すぐに水泳を教えてくださいなんです。みんなと一緒に泳ぐ

プリンさん

前に。

プリンさん

わかった。パパさんは、自分が泳げないことを、みんなに知られたくな

いんですね？

そこへ、ママ・トラコ・クマコ・ツヨシが戻ってくる。ツヨシは普段着に着替えている。

ママ

あら、プリンさん、こんにちわ。

ママ

（受け取って）どうもすいません。海に着いたら、みんな食べましょ  
うね。

プリンさん

あの、私も一緒に行つていいですか？

ママ

プリンさんも？

いや、その、実は私が誘つたんだ。プリンさんは水泳が苦手だね。1メ  
ートルしか泳げないんだってさ。だから、私が教えてあげることにした  
んだ。

ママ

そういうことなら、どうぞどうぞ。

トラコ

へえ。プリンさんて、1メートルしか泳げないんだ。

クマコ

1メートルじゃ、泳げることにならないよね。

プリンさん

パパさん。

二人とも失礼なことを言うんじゃない。誰だって、最初は泳げないんだ。  
一生懸命練習して、初めて泳げるようになる。大切なのは、努力するこ  
とだ。ツヨシだって同じだぞ。

プリンさん

パパさんもね。

ママ

さあ、みんな。海へ出かけるわよ。急いで車に乗って。

パパ・ママ・トラコ・クマコ・ツヨシ・プリンさんが車に乗る。

―――M4「海が僕らを呼んでいる」

プリンさん 6時間目の授業中 ウトウト眠りかけた時

窓の外から聞こえた 僕の名前を呼ぶ声

パマトクツ おいおいで 海へ海へ

走っっおいで 僕のところへ

プリンさん 窓を飛び出し僕は走る 坂を登ると目の前に

広がる広がる 大きな大きな  
大きな海だ

ママ パパ、海はまだ？

パパ もうすぐだよ。えーと、次の交差点は左へ曲がるんだっけ。

プリンさん 違います。海へ行くなら、右へ曲がらないと。

トラコ パパ、私、おなかが空いた。

クマコ 私も。

ママ ママも。

パパ みんな、ワガママばかり言っつて。一番空いてるのは、運転している私な

んだぞ。

プリンさん パパさん、交差点です！ 早く右へ曲がって！

パパ しまった！（とハンドルを切る）

パマトクツ うわーっ！（と傾く）

パパ・ママ

ラッシュアワーの電車の中 足を踏まれて叫んだ時  
車内放送のスピーカー 僕の名前を呼ぶ声

トクツプ

おいでおいで 海へ海へ  
走っておいで 僕のところへ

パパ・ママ

下り電車に乗り換えて 終点で降りるとそこは  
激しく激しく 波打つ波打つ  
大きな海だ

パパ  
ママ

ママ！ 海に着いたよ！  
さあ、みんな。車から降りて。

パパ・ママ・トラコ・クマコ・ツヨシ・プリンさんが車から降りる。そこへ、海賊ハックと子分たちがやってくる。「海賊屋」と書いたハッピを着ている。

海賊ハック

いらっしやいませ！  
あら、こんな所に海の家があるわ。

プリンさん

「海賊屋」ですって。変な名前。  
そのキレイなお嬢さん、ウチの店でお食事はいかがですか？

海賊ハック

キレイなお嬢さんて、もしかして私のこと？  
もちろんですよ。オードリー・ヘプバーンにそっくりなお嬢さん。

ママ

さあ、みんな。このお店でごはんを食べるわよ。  
毎度ありがとうございます。6名様ご案内！

海賊ハック

パパ・ママ・トラコ・クマコ・ツヨシ・プリンさんが海の家に入る。

海賊ハック

お風呂に入っただけのんびりと 歌を歌っていた時

湯気の中から聞こえた 僕の名前を呼ぶ声

子分たち

おいでおいで 海へ海へ

走っただけで 僕の前へ

海賊ハック

お湯に潜って僕は泳ぐ 苦しくなって顔を出したら

カモメがカモメが 飛んでる飛んでる  
大きな海だ

パパ・ママ・トラコ・クマコ・プリンさんが海の家から出てくる。

ママ

あー、おいしかった。

パパ

(小声で) さあ、プリンさん。あっちへ行って練習しましょう。

ママ

あら、パパ。どこへ行くの？

パパ

いや、その、食後の運動に、散歩でもしようかなと思って。

ママ

食後の運動なら、水泳が一番よ。さあ、みんな。いよいよパパが泳ぐと

トラコ

ころが見られるわよ。

クマコ

パパ、1万メートル泳いで見せて。

パパ

それより、沖へ行って、イルカを呼んできて。

プリンさん

プリンさん。そう言えば、ツヨシくんがいませんね。

パパ  
ママ  
プリンさん  
海賊ハック

本当だ。一体どこへ行ったのかな。  
わかった。きっと逃げたのよ。海に入るのが怖くて。

一人で大丈夫かしら。  
すぐに探しに行った方がいいですよ。お荷物は、私がお預かりしましよ  
うか？

ママ

結構です。パパ、すぐにツヨシを探してきて。私たちはこのお店で待つ  
てるから。

パパ  
プリンさん

プリンさんも一緒に行ってくださいますか？  
もちろんですよ。

パパとプリンさんが去る。ママ・トラコ・クマコ・海賊ハック・子分たちが海の家に入る。

ツヨシがやってくる。

ツヨシ

パパとママ、心配してるかな。でも、僕は海へなんか来たくなかったんだ。僕は水泳が嫌いだ。海なんか大嫌いだ。

反対側から、水族館館長のマンボウさんがやってくる。

マンボウさん

君、君、君。

ツヨシ

僕ですか？

マンボウさん

そうじゃ、君じゃ。君は今、「海なんか大嫌いじゃ」と言ったな？

ツヨシ

「大嫌いじゃ」なんて言ってます。僕は「大嫌いだ」って言ったんです。

マンボウさん

とにかく、君は、海が大嫌いなんじゃな？

ツヨシ

ええ、まあ。

マンボウさん

どうしてじゃ。

ツヨシ

だって、海は深いじゃないですか。ちょっと沖の方へ行ったら、すぐに

マンボウさん

足がつかなくなる。

ツヨシ

足がつかなくなると、何かまずいことがあるのか？

マンボウさん

泳げない人はどうなるんですか？ 足がつかなければ、おぼれちゃうじ

やないですか。  
マンボウさん そうか。君は泳げないんじゃない？ だから、海が大嫌いなんじゃない？  
ツヨシ それだけじゃありません。海は怖いじゃないですか。サメとかシヤチと  
マンボウさん 怖くない魚もいっぱいいるぞ。ほら。

壁にたくさんの魚が映し出される。

ツヨシ すごい！

マンボウさん どうじゃ。一口に魚と言っても、いろんな種類がいる。こうして見ると、  
ツヨシ なかなかキレイじゃろう。

マンボウさん ここは一体どこですか？  
ツヨシ 入口の看板を見なかったのか？ ここは、マーメイド水族館じゃ。

マンボウさん あなたは一体誰ですか？  
ツヨシ マーメイド水族館の館長じゃ。子供たちには、マンボウさんと呼ばれて

いる。どうしてマンボウさんと呼ばれるかは謎じゃ。  
ツヨシ それはたぶん、顔がマンボウに似てるからですよ。

マンボウさん バカなことを言うな。人間のワシが、マンボウなんか似てるわけない  
じゃろう。

すると、壁にたくさんのマンボウが映し出される。

マンボウさん あっ！ ワシだ！ ワシだ！ ワシだ！

ツヨシ ほらね。やっぱり似てるでしょう？

———  
M5 「水族館へ行こうよ」

マンボウさん

人は昔 海の中で暮らしていた  
人はやがて 陸の上へ上がったけれど

人は時々 海の中が懐かしくなる

カツオ ニシン サバ アジ マグロ

カレイ ヒラメ フグ ハゼ アンコウ

みんな友だち 海の友だち

友だちに会いたくなったら

行こうよ僕と 水族館へ

二人

そこへ、副館長のトビウオさんと部下たちがやってくる。

トビウオさん

館長さん、その子は誰ですか？  
うちの水族館のお客さんじゃ。名前は、まだ聞いてなかったな。

ツヨシ

ツヨシです。初めまして。こちらはこそ、初めまして。僕は、マーメイド水族館の副館長です。

トビウオさん

子供たちには、トビウオさんと呼ばれている。どうしてトビウオさんと  
呼ばれるかは謎じゃ。

ツヨシ

それもたぶん、顔がトビウオに似てるからですよ。

トビウオさん

冗談じゃない。こんなにカッコいいトビウオがいてたまるか。

すると、壁にたくさんのトビウオが映し出される。

トビウオさん あっ！ 僕だ！ 僕だ！ 僕だ！  
マンボウさん なるほど。確かに似てるな。 僕だ！

トビウオさん

人は昔 海の中で暮らしていた  
時は流れ 思い出も消えたけれど  
別れてきた 友だちが懐かしくなる  
クラゲ ヒトデ タコ イカ サンゴ  
クジラ イルカ サメ シャチ マンボウ  
みんな友だち 海の友だち  
友だちに会いたくなったら  
行こうよ僕と 水族館へ

全員

そこへ、プリンさんとパパがやってくる。

プリンさん

ツヨシくん、こんな所にいたの？

ツヨシ

あ、プリンさん。

パパ

急にいなくなつたから、心配してたんだぞ。さあ、ママの所へ帰ろう。

マンボウさん

あんたはツヨシくんのお父さんかな？

パパ

そうですけど、あなたは？

マンボウさん

マーメイド水族館の館長じゃ。

パパ

うちの息子がご迷惑をかけて、すいませんでした。

マンボウさん

別に迷惑はかけてない。ちよつと話をしていただけじゃ。

プリンさん

話って、どんな？

マンボウさん

海の話じゃ。ツヨシくんは、「海は怖い」と言っていた。「サメとかシ

ヤチとか、怖い魚がいっぱいいる」と。

プリンさん

私も、サメは怖いわ。

マンボウさん

じゃからと言って、海を怖がるのはおかしい。人間の祖先は、海の中で

暮らしていた。つまり、海は人間のふるさとなんじゃ。

プリンさん

海は人間のふるさとか。だから、海を見ると、懐かしい気持ちになるの

かな。

パパ

でも、泳げない人間にとっては、やっぱり海は怖いですよ。

マンボウさん

プリンさん

パパ

ツヨシ

パパ

プリンさん

パパ

マンボウさん

マンボウさん

マンボウさん

マンボウさん

マンボウさん

マンボウさん

ツヨシ

マンボウさん

マンボウさん

人間には、もともと泳ぐ能力がある。最初は泳げなくても、練習すれば必ず泳げるようになるんじゃない。

そうですよ、パパさん。大切なのは、努力することです。

わかったか、ツヨシ。

わかった。僕、一生懸命練習するよ。だから、パパも怒らないで教えて

よ。

任せなさい。

大丈夫ですか、パパさん。

頼りにしてますよ、プリンさん。

それじゃ、僕たち、ちよつと出かけてきます。

また人魚を探しに行くのか？

さつき、すごい情報を手に入れたんですよ。岬の方に、洞窟がいっぱい

ありますよね？ その近くを通った漁師が、不思議な声を聞いたらしい

んです。

不思議な声？

男か女かわからないけど、大きな笑い声だったそうです。ガツハツハ、

ガツハツハって。

それが人魚じゃと言うのか？

間違いありません。あんな所に、人間がいるわけないですからね。

しかし、人魚がガツハツハなんて笑い方をするかな。

マンボウさん。この村には、人魚がいるんですか？

ただの噂じゃよ。トビウオくんはいると思ってるようじゃが。

絶対にいますよ。この村には、古くからの言い伝えがあるんです。

ツヨシ  
トビウオさん  
言い伝えって？  
人魚の伝説さ。

――――  
M 6 「人魚の恋の物語」

人魚たちがやってくる。話と歌に合わせて、ダンスを踊る。

トビウオさん

今から何百年も昔、この村の海には人魚がいたんだ。人魚は歌が好きだったので、海に浮かんで、毎日、歌を歌っていた。ある日、人間の男の子がやってきて、人魚に向かってこう言った。僕は今から歌を歌う。僕の歌が君よりうまかったら、僕のお嫁さんになってくれって。そして、男の子は歌を歌った。あんまりうまくなかったけど、一生懸命歌った。人魚は男の子のことが好きになって、お嫁さんになる約束をしたんだ。星がキラキラ輝く夜、浜辺を歩いていて、お嫁さんになると  
優しい風に乗って、遠くから聞こえてくる

トビウオさん

全員

誰かの歌声 明るい歌声  
それは人魚 人魚が笑ってる  
もう一度あの歌を歌ってと  
それは人魚 人魚が笑ってる  
また明日も会いに来てねと

トビウオさん

ところが、ある日を境にして、男の子は会いに来なくなっちゃったんだ。人魚はとても心配した。病気にでもなっちゃって、家で寝込んでるんじゃないかって

て。それで次の日、人間の恰好をして、男の子の家を訪ねていった。しかし、男の子はいなかった。他の町へ引っ越してしまっただ。人魚は泣いた。が、すぐに約束を思い出した。男の子は、いつかきつと迎えに来てくれる。だって、お嫁さんになる約束をしたんだもの。

トビウオさん

月がボンヤリかすんだ夜 浜辺を歩いていると  
冷たい風に乗って 遠くから聞こえてくる

誰かの歌声 悲しい歌声

全員

それは人魚 人魚が泣いている

もう一度あの人に会いたいと

それは人魚 人魚が泣いている

私のもとへ帰ってきてと

プリンさん

それで、男の子は帰ってきたんですか？

トビウオさん

帰ってこなかった。だから、人魚は今でも男の子の帰りを待ってるんだ。

プリンさん・パパ・ツヨシ・マンボウさん・トビウオさん・部下たちが去る。人魚たちも去る。

ママ・トラコ・クマコがやってくる。

ママ　　パパもプリンさんも遅いわね。ツヨシはまだ見つからないのかしら。  
トラコ　　ママ。私、早く海に入りたい。  
クマコ　　二人で泳いできてもいい？  
ママ　　パパたちが帰ってくるまで待ちなさい。せっかくみんなで来たんだから、  
みんな泳がなくなっちゃダメよ。

そこへ、カメの亀吉がやってくる。

トラコ　　あ、カメだ。  
クマコ　　ずいぶん大きなカメね。私、背中に乗ってみようかな。  
トラコ　　ちよつと待って。私が先に乗る。  
クマコ　　ずるいよ、お姉ちゃん。私が先に乗るって言ったんだよ。  
ママ　　二人ともやめなさい。カメをいじめると、浦島太郎に怒られるわよ。  
ママ　　何言ってるの？  
浦島太郎　　浦島太郎なんて、おとぎ話じゃない。  
ママ　　それもそうね。じゃ、ママも背中に乗ろうかな。

そこへ、海賊ハックと子分たちがやってくる。

海賊ハック

ママ

海賊ハック

ママ

海賊ハック

ママ

トラコ・クマコ

海賊ハック

ママ

海賊ハック

ママ

海賊ハック

ママ

海賊ハック

ママ

海賊ハック

カメをいじめてるのは誰だ！

私はいじめてませんよ。あんまりカワイイから、チューしようと思っただけ。

嘘をつくな。今、背中に乗ろうとしたじゃねえか。

なんだ。浦島太郎かと思つたら、海の家のおじさんじゃない。

カメのヤツ、あまりの重さに目を回してるぜ。よし、カメ。おまえの

仇は俺様が取ってやるからな。(と刀を抜く)

キヤー！ 何をするの！

ママ、怖い！

カメにかわって、おまえらを成敗してやる。覚悟はいいか。

よくない！ 私はまだ死にたくない！

そうか、死にたくないか。だったら、身ぐるみ脱いでトットと失せろ。

身ぐるみ脱いでって？

服を全部脱げって言ってるんだよ。

エッチ！ この人、エッチよ！

違う！ 俺様は、別に裸が見たいわけじゃねえ。おまえらの服と荷物が

ほしただけだ。

海の家のおじさんが、どうしてこんなことをするの？

ガッハッハ！ 海の家のおじさんは、世を忍ぶ仮の姿。俺様の正体は、

泣く子も黙る海賊だ！

———  
M 7 「ゾクゾクさせる海賊の歌」

海賊ハック

俺たちや海賊 海賊だぜ  
七つの海を渡るギヤングだぜ  
俺たちや海賊 海賊だぜ  
おまえのハートをゾクゾクさせるぜ

海賊ハック

ほしいものは何でも手に入れるぜ  
邪魔するヤツは皆殺しにするぜ  
死にたくなけりやサッサと金を出せ  
金がないけりやサッサと服を脱げ ガッハッハ！  
海の男はロマンが好きだ  
生きるか死ぬかのスリルが好きだ  
女なんかにわかってたまるか  
しかし 俺に惚れるのは勝手だぜ

ハック・子分

俺たちや海賊 海賊だぜ  
七つの海を渡るギヤングだぜ  
俺たちや海賊 海賊だぜ  
おまえのハートをゾクゾクさせるぜ

子分たちが、ママ・トラコ・クマコを縛り上げる。荷物を引っ繰り返して、財布を探す。

海賊ハック

怖いものは何にもありやしないぜ

ハック・子分

強いヤツには平気で謝るぜ  
相手が油断をしたらこっちのもの  
海に突き落としてサメのえじきだぜ　ガッハッハ！  
それでも時々センチになるの  
ひとりぼっちが淋しくなるの  
老後の生活とつても心配  
だから　ただいま恋人募集中だぜ  
俺たちや海賊　海賊だぜ  
七つの海を渡るギヤングだぜ  
俺たちや海賊　海賊だぜ  
おまえのハートをゾクゾクさせるぜ

海賊ハック  
イック  
海賊ハック  
ママ  
海賊ハック  
ママ  
海賊ハック  
ママ  
海賊ハック  
ママ  
トラコ・クマコ

どうだ。金目のものはあつたか。  
お頭、これを見てください。（と財布を差し出す）  
（受け取って）ほう。たっぷり入ってるじゃねえか。  
ちよつと、私のお財布をどうするつもり？  
俺様がいたたくつもりだ。ガッハッハ！  
それは困るわ。お財布を取られたら、私たちが、家へ帰れなくなるわ。  
心配するな。おまえらは、もう家へ帰る必要はない。  
どういう意味？  
ここで死ぬって意味だ。ガッハッハ！（と刀を振り上げる）  
キヤー！　助けて！  
パパ、助けて！

ニツク  
海賊ハック  
ニツク  
海賊ハック  
サンク  
海賊ハック  
サンク  
海賊ハック  
ママ  
海賊ハック  
ママ  
海賊ハック  
ママ  
海賊ハック  
ママ  
海賊ハック  
ママ  
海賊ハック

お頭、ちよつと待ってください。  
止めるんじゃないねえ。こういううるせえ女はお仕置きした方がいいんだ。  
この女、誰かに似てませんか？  
誰かって誰だ。  
思い出した。女王ですよ。  
女王って言うのと、俺様が探している、あの女王か？  
そうです。この顔をよく見てください。  
なるほど。確かに女王だ。こんな服を着てるから、気がつかなかったぜ。  
私が女王？  
しらばつくれるな。うまく人間に化けたつもりでも、俺様の目はごまかせねえぞ。  
私は何の女王だって言うのよ。ブタの女王だなんて言ったら、承知しないわよ。  
しらばつくれるなって言ってるんだよ、人魚の女王。  
私がお魚？  
おまえとは、前から一度、話がしてえと思ってたんだ。おまえが持つてる人魚の剣。そいつをぜひとも、俺様のものにしたくてな。  
あなた、何か誤解してるわ。確かに私は、人魚みたいにキレイだけど、人魚じゃない。普通の人間よ。  
あくまでしらばつくれるつもりか。それなら、こつちにも考えがある。  
ほら、立て！  
私たちを、どうするつもり？  
俺様の隠れ家へ連れていくつもりだ。ガッハッハ！ ほら、歩け！

海賊ハック・子分たち・ママ・トラコ・クマコが去る。

プリンさん・パパ・ツヨシがやってくる。

プリンさん

あれ？ おかしいな。

プリンさん

どうしたんですか、プリンさん。

プリンさん

海の家がなくなってるんです。さっきまで、ここにあっただのに。

プリンさん

本当だ。私たちが水族館へ行ってる間に、お引越ししちゃったのかな。まさか。

ツヨシ

パパ、ママとお姉ちゃんたちは？

プリンさん

確か、お店の中で待ってるって言ってたんだけど。

プリンさん

お店もなければ、ママさんたちもいない。何かおかしいですね。

ツヨシ

ママ！ トラコ！ クマコ！

プリンさん

みんな！ どこへ行ったの！

プリンさん

あつ！

プリンさん

どうしたんですか、プリンさん。

プリンさん

ほら、ここを見てください。(と地面をさして) 砂に文字が書いてあります。

プリンさん

これはママの文字だ。なにに？ 「パパ、助けて」？

プリンさん

大変だわ。ママさんたちに、何か起きたんですよ。

プリンさん

何かあって？

プリンさん

たぶん、誰かに連れていかれたんです。だから、「助けて」って書いたんですよ。

ツヨシ

パパ、何とかしてよ。

パパ

そんなことを言われても、これだけじゃ、どこへ連れていかれたのか、わからないし。

プリンさん

とにかく、急いで探しましょう。

パパ

でも、もう暗くなってきましたよ。探してる途中で、海に落ちたりしたら。

ツヨシ

そんなこと言ってる場合じゃないよ。ママたちにもしものことがあったら、どうするの？

そこへ、カメの亀吉がやってくる。

プリンさん

あら、カメだわ。

パパ

ずいぶん大きなカメですね。あのカメなら、ママたちに何が起きたか、知ってるかもしれないな。

プリンさん

よし。話を聞いてみましょう。

パパ

カメにですか？ でも、カメには日本語がしゃべれないんですよ。

プリンさん

月の光に助けてもらえば、しゃべれるようになりますよ。

パパ

月の光に？

その時、空からトンガリぼうしが飛んでくる。プリンさんがつかみ、頭にかぶる。

プリンさん

お願い月の光よ 私の声聞いてよ  
闇に迷った旅人に 道を教えるその光で  
私の悲しみ消して 明日はきつと  
いい日が来ると 信じていたから  
ルーナルルーナル

遠くに、白くて大きな満月が見える。

プリンさん

お願い月の光よ 私の声聞いてよ  
家をなくした子犬に ほほえみかけるその光で  
私の淋しさ消して いつかまた  
あの人に会えると 信じていたから  
ルーナルルーナル

プリンさん

パパ・ツヨシ

さあ、ツヨシさんとパパさんも一緒に言ってください。ルーナルルーナル！  
ルーナルルーナル！

月の光が亀吉を包む。と、亀吉が立ち上がる。

ツヨシ

あつ！ カメが立ち上がった！

プリンさん  
亀吉  
プリンさん  
亀吉  
プリンさん  
ツヨシ  
パパ  
プリンさん  
亀吉  
プリンさん  
ツヨシ  
パパ  
プリンさん  
亀吉  
プリンさん  
ツヨシ  
パパ  
プリンさん

こんばんわ、カメさん。  
オラの名前は、カメさんじゃねえ。亀吉だ。  
こんばんわ、亀吉さん。  
おめえは誰だ。  
私の名前はプリン。こちらはツヨシくんと、ツヨシくんのパパさん。  
初めまして、ツヨシです。  
ツヨシのパパです。いやいや、カメさんと話をするなんて、生まれて初めてですよ。  
オラの名前は、カメさんじゃねえ。亀吉だ。  
亀吉さんに、一つ聞きたいことがあるのよ。亀吉さんは、ここにいた女の子って、どんな女だ？  
僕のママと、トラコ姉ちゃんと、クマコ姉ちゃんです。  
あーあー、オラの背中に乗ろうとした女たちか。  
その人たちがどこへ行ったか、知らない？  
洞窟へ連れていかれたんだ。  
誰に？  
ここで海の家をやったヤツらだ。あいつら、本当は海賊だったんだ。  
海賊だって？  
パパ、ママとお姉ちゃんたちを助けてよ。  
でも、海賊っていうのは、とっても怖いんだぞ。  
怖いなんて言ってもらえませんよ。すぐに、後を追いかけないと。亀吉さん、洞窟っていうのはどこにあるの？

亀吉  
プリンさん

口で言ってもわからねえ。オラが案内してやるう。  
ありがとう、亀吉さん。  
礼はいらねえ。昔から、カメは親切って決まってるんだ。

亀吉・プリンさん・パパ・ツヨシが去る。

——— M 9 「ダンス・イン・ザ・ダーク」(演奏のみ)

コウモリたちがやってくる。洞窟の中をスイスイと飛び、ヒラヒラと舞う。そこへ、トビウオさんがやってくる。トビウオさんがコウモリたちに懐中電灯を向ける。コウモリたちが飛び去る。

トビウオさん みんな、こっちだ。早くこい。

部下たちがやってくる。

トビウオさん みんな、耳をすませ。どこからか、声が聞こえないか？

部下たち 聞こえません。

トビウオさん そう言わずに、もっとよく聞くんだ。漁師が不思議な声を聞いたのは、確かにこの洞窟なんだから。

メグミ あっ！

トビウオさん どうした。何か聞こえたのか。

メグミ 今、キュルキュルキュルって音がしました。

トビウオさん それは、僕のおなかの音だ。さっきから、おなかがペコペコなんだ。

アツシ あっ！

トビウオさん

アツシ

トビウオさん

キョウコ

タカコ

トビウオさん

キョウコ

タカコ

トビウオさん

マユミ

トビウオさん

マユミ

トビウオさん

部下たち

トビウオさん

海賊ハック

トビウオさん

海賊ハック

トビウオさん

トビウオさん

どうした。何か聞こえたのか。

僕のおなかもキュルキュルキュルって。

そんなことは、いちいち報告しなくていい。

でも、私たちが、もう5時間も歩いてるんですよ。

私、おなかが空いて死にそう。

元氣を出せ。人魚が見つければ、もう少しの辛抱だ。

ダメです。もう一歩も歩けません。

私も。

仕方ない。今日はここで諦めて、引き上げるとするか。あ、痛！（と石

につまづく）あれ？ この石には、さっきもつまずいたな。ということ

は、この道はさっきも通ったということだ。

私たちが、同じ道をグルグル回ってたんですか？

どうやら僕らは、迷子になっただけらしい。

それじゃ私たちが、一生ここから出られないんですか？

あつ！

どうしたんですか、トビウオさん。

声が聞こえた。みんな、静かにするんだ。

ガッハッハ！ ガッハッハ！

あの声は、漁師が聞いた人魚の声だ。

ガッハッハ！ ガッハッハ！

やったぞ。僕たちはついに人魚を発見したんだ。あつ、こっちへ来る！

そこへ、海賊ハック・子分たち・ママ・トラコ・クマコがやってくる。

海賊ハック

ママ

海賊ハック

ママ

海賊ハック

ママ

トラコ

クマコ

ママ

海賊ハック

どうだ。そろそろしゃべる気になったか。  
しゃべるって、何を？  
決まってるだろう。人魚の剣がどこにあるかだ。  
だから、私は知らないって言ってるのに。  
強情な女だな。5時間歩かせても、まだ白状しないつもりか。  
白状したくてもできないのよ。知らないものは知らないんだから。  
ママ、私、疲れた。  
おなかが空いて、もう歩けない。  
お願い。少しでいいから、休ませて。  
ダメだダメだ。おまえが白状しないなら、死ぬまで歩かせてやる。真っ  
暗な闇の中をな。

MI0「闇より怖いものはない」

海賊ハック

そいつのことを考えると  
怖くて怖くてたまらない

夜も怖くて眠れない

それほど怖いものは何

床をカサカサ走るゴキブリ

雨がゴーゴー窓打つ台風

足にニョロニョロからみつくへび

窓からジッと見ている幽霊

海賊ハック

ママ

海賊ハック

ママ

海賊ハック

ハ子マトク

それよりもっと怖いのは闇  
何も見えない闇  
目の前に悪魔が立っていても  
君には見えない

海賊ハック・子分たち・ママ・トラコ・クマコが去る。

トビウオさん 知らなかった。人魚っていうのは、あんなヤツだったのか。

そこへ、亀吉・プリンさん・パパ・ツヨシがやってくる。

ツヨシ あ、トビウオさん。こんな所で何をしてるんですか？

トビウオさん ツヨシくん、聞いてくれ。僕たちはついに人魚を発見したんだ。

ツヨシ 本当ですか？

トビウオさん 君には聞こえなかったかな、今の歌。

ツヨシ 男の人が歌っていた歌ですか？

トビウオさん そうだ。実は、その歌を歌っていたのが――

プリンさん 海賊ですよ。

トビウオさん 海賊？

プリンさん ツヨシくんのママさんとお姉さんたちをさらっていった悪者ですよ。私

トビウオさん たちは、それを追いかけてきたんです。

プリンさん そうか、海賊だったか。よかった。あんなヤツが人魚じゃなくて。

プリンさん それで、海賊はどっちへ行っただんですか？

トビウオさん

プリンさん

亀吉

プリンさん

トビウオさん

プリンさん

トビウオさん

パパ

ツヨシ

パパ

パパ

プリンさん

プリンさん

プリンさん

パパ

全員

あつちです。

亀吉さん、あつちに間違いない？

つべこべ言っていないで、オラについてこい。

わかったわ。さあ、ツヨシくん。行きましょう。

僕たちも一緒に行っているんですか？

どうぞどうぞ。

よかった。これで、家まで帰れるぞ。

プリンさん、ちょっと待ってください。私を置いていかないで。

パパ、怖いのか？

別に怖くはないけど、こんな真っ暗な所を歩くのは、生まれて初めてなんだ。

そいつのことを考えると

ガタガタブルブル震えちゃう

お風呂に入っても震えちゃう

それほど怖いものは何

ウルトラマンより強い怪獣

怪獣よりもっと強い強いママ

そのママさんをさらっていった

海賊たちが一番怖い

それよりもっと怖いのは闇

何も見えない闇

目の前に悪魔が立っている

君には見えない

亀吉・プリンさん・パパ・ツヨシ・トビウオさん・部下たちが去る。

海賊ハック・子分たち・ママ・トラコ・クマコがやってくる。

海賊ハック

ママ

さすがに5時間も歩くと疲れるな。そろそろメシにするか。  
あー、よかった。私、おなががペコペコだったのよ。あなたたちは何が

トラコ

食べたい？  
私はカレーライス。

クマコ

私はオムライス。  
ママはやっぱり、牛丼かな。

ママ

海賊ハック  
こら、待て！ 誰がおまえらに食わせてやると言った。  
お金はちゃんと払うわよ。さっき私から盗んだお財布、あれから抜いて

ママ

海賊ハック  
おいてちょうだい。  
あの財布はもう俺様のものだ。野郎ども、こいつらを牢屋にぶち込んで

ママ

海賊ハック  
待って。せめてお水だけでもいいから、一杯飲ませて。

ママ

海賊ハック  
飲みたかったら、白状するんだ。  
物わりの悪い男ね。私は何も知らないの。

ママ

海賊ハック  
こんな強情な女は初めてだ。野郎ども、さっさと連れていけ。  
いいわよ。ちようどダイエツトしようと思っただから。

子分たち・ママ・トラコ・クマコが去る。

海賊ハック

さてと。うるせえ女がいなくなったところで、そろそろ話をつけようじやねえか。話があるから、そこに隠れてるんだらう？ 黙ってねえで、サッサと出てこい！

亀吉・プリンさん・パパ・ツヨシ・トビウオさん・部下たちが出てくる。

プリンさん

私たちがここに隠れてるって、よくわかったわね。

海賊ハック

俺様に一体何の用だ。

プリンさん

ママさんたちを返してちょうだい。

海賊ハック

返してちょうだいだと？ すると、あの女たちはおまえの持ち物か。

プリンさん

違うわ。私はママさんたちの知り合いよ。

海賊ハック

なんだ、ただの知り合いか。てことは、赤の他人てわけだ。赤の他人が、

プリンさん

悔しい！

ツヨシ

僕は赤の他人じゃないよ。ママの子供だ。

海賊ハック

ガキは黙ってろ。

ツヨシ

パパも何とか言つてよ。

パパ

わかったわかった。私はママの夫です。トラコとクマコのパパです。お

トビウオさん

願いですから、ママたちを返してください。

パパ

ダメですよ。もつと男らしく、ビシツと言わなくちや。返せつたら返せ！

海賊ハック

パパ

海賊ハック

パパ

海賊ハック

海賊ハック

子分たちが平均台を二つ持ってくる。二つをV字型に並べる。

何だと？

返してくれたら、おまえの言うことをなんでも聞いてやるぞ。

よし。俺様の言うことをなんでも聞くと聞いたな。それじゃ、おまえの

勇気を見せてもらおうか。

勇気を見せるって？

野郎ども、海賊養成マシンを持ってこい！

トビウオさん

海賊ハック

パパ

海賊ハック

パパ

海賊ハック

パパ

トビウオさん

海賊ハック

パパ

プリンさん

ツヨシ

なんだ。ただの平均台じゃないか。

平均台じゃねえ。海賊養成マシンだ。こいつを使えば、おまえに勇気が

あるかどうか、すぐにわかる。

どうやって使うんですか？

こいつの上を、端から端まで歩くんだ。

なんだ、意外と簡単じゃないか。

ただし、途中で落ちたら、首をちよん切る。(と刀を抜く)

えー？

よし、僕がやりましょう。僕はこういうのは得意なんですよ。

こら、待て！ 誰がおまえにやれと言った。俺様は、こいつの勇気が見

てえんだ。

しかし、私はこういうのは苦手だからな。

大丈夫。きつとできますよ。

パパ、がんばって！

海賊ハック

おまえがやる前に、お手本を披露してやる。野郎ども、おまえらの勇気を見せてやれ。

自分たちが平均台を渡り始める。

———M11「勇気があれば」

海賊ハック

なんでも初めてやる時は胸がドキドキするものさ

逃げたくなるのはわかるけど

覚悟を決めてやるしかない

全員

勇気 勇気 勇気があれば

この広い空を飛べるかもしれない

勇気 勇気 勇気があれば

あの子に好きだと言えるかもしれない

自分たちが渡り終える。みんなで拍手をする。

プリンさん

さあ、パパさんの番ですよ。

パパ

ちよっと待ってください。私はまだ心の準備が。

ツヨシ

パパ、どうしたの？ もしかして、怖いのか？

トビウオさん

仕方ない。僕がかわりにやりましょう。

海賊ハック

おまえはいいって言うてるだろう。どうやら、もう少しお手本が必要な

ようだな。(客席に向かって) 誰か、やってみたいヤツはいるか。いたら、手を挙げる。

客席の子供たちが手を挙げるだろう。海賊ハックが、その中から何人か選んで、ステージに連れてくる。子供たちが平均台を渡り始める。

プリンさん

なんでも一人でやる時は

みんなの視線が気になるさ

カッコつけたら失敗する

素直な気持ちでやるしかない

勇気 勇気 勇気があれば

この広い空を飛べるかもしれない

勇気 勇気 勇気があれば

あの子に好きだと言えるかもしれない

全員

子供たちが渡り終える。成功しても失敗しても、みんなで拍手をする。

トビウオさん

僕なら、もっと上手に渡れるのに。

パパ

いよいよ私の番か。

ツヨシ

パパ、足が震えてるよ。やっぱ怖いんだね？

プリンさん

きつと武者震いよ。さあ、パパさん。

パパが平均台を渡り始める。

トビウオさん

誰でも失敗した時は

顔が真っ赤になるものさ

言い訳なんかしなくていい

今度はきつとうまくできる

勇気 勇気 勇気があれば

この広い空を飛べるかもしれない

勇気 勇気 勇気があれば

あの子に好きだと言えるかもしれない

全員

パパが渡り終えようとしたところで、海賊ハックが刀を振り回す。パパが平均台から落ちる。プリンさんとツヨシが駆け寄る。

ツヨシ

パパ、大丈夫？

プリンさん

ひどいじゃない、邪魔するなんて。

海賊ハック

あと少しの所だったのに、残念だったな。約束通り、首をちよん切るぞ。

トビウオさん

何言ってるんだ。パパさんが落ちたのは、おまえのせいじゃないか。

海賊ハック

うるせえ。つべこべ言うとおまえの首もちよん切るぞ。

ツヨシ

プリンさん、何とかしてよ。

プリンさん

月は？ どこかに月は出てない？

ツヨシ

ここは洞窟の中だよ。月なんか出てるわけがないよ。

プリンさん

困ったわ。月の光がないと、私は魔法が使えないのよ。

海賊ハック

さあ、覚悟はいいか。

プリンさん

助けて！ 誰か助けて！

その時、亀吉が海賊ハックの足をつかむ。

亀吉

トオー！

海賊ハック

うわー！ 放せ！

亀吉

こいつはオラに任せて、早く逃げろ！

プリンさん

ありがとう、亀吉さん！

カメ吉

礼はいらねえ。昔から、カメは親切って決まってるんだ。

海賊ハック

野郎ども、あいつらを追いかける！

プリンさん・パパ・ツヨシ・トビウオさん・部下たちが走り去る。後を追って、子分たちが走り去る。海賊ハックと亀吉も去る。

プリンさん・パパ・ツヨシが走ってくる。

ツヨシ マンボウさん！ マンボウさん！

反対側から、マンボウさんがやってくる。

マンボウさん　なんだ、ツヨシくんじゃないか。そんなに慌てて、どうしたんじゃ。  
ツヨシ　助けてください。海賊に追われているんです。  
マンボウさん　海賊に？ よし、ワシに任せなさい。さあ、来い、海賊！　ワシの空手

プリンさん　あ、誰も来ないわ。

ツヨシ　よかった。きつと諦めて帰ったんだ。  
プリンさん　でも、トビウオさんも来ないわ。一緒にいた子供たちも。

ツヨシ　捕まっちゃったのかな、海賊に。

プリンさん　たぶんね。

君たちは、今までどこにいたんじゃ。  
岬の洞窟です。海賊がママとお姉ちゃんたちを連れてっちゃったから、  
僕らは後を追いかけたんです。

プリンさん  
マンボウさん  
プリンさん  
ツヨシ  
パパ  
プリンさん  
ツヨシ  
パパ  
プリンさん  
ツヨシ  
マンボウさん  
マンボウさん  
プリンさん  
マンボウさん

トビウオさんとは、洞窟の中で会ったんです。人魚を探していて、迷子になったって言ってました。  
人魚を探しに行ったら、海賊がいたというわけか。漁師が聞いた、ガツハツハという声は、海賊の笑い声じゃったんじゃない。  
トビウオさんたち、大丈夫かしら。  
ママたちも心配だよ。  
私が悪いんだ。私があの時、落ちなければ。  
あれは仕方なかったんですよ。海賊が刀を振り回して、邪魔したから。  
海賊は、ママたちを返すつもりなんかなかったんだ。  
いや、私が男らしく返せと言えば、返してくれたかもしれない。それなのに、私は男らしくできなかったよ。  
パパさんはがんばりましたよ。  
そうだよ。パパは全然悪くないよ。  
いや、悪いのは私だ。私は海賊が怖かった。海賊が怖かったんだ。  
ワシだって海賊は怖いぞ。ツヨシくんも怖いじゃろう？  
怖いよ、とつても。  
人間なら、誰にだって怖いものはある。そのことを、恥ずかしがる必要はない。  
でも、私が怖いと思わなければ、ママもトラコもクマコもトビウオさんたちも、助けることができたんですよ。  
諦めるのはまだ早い。今から助けに行けばいいじゃろう。  
でも、海賊は刀を持ってんです。私たちでは勝てません。  
刀なら、ワシも一本持つてる。そいつを貸してやろうじゃないか。

マンボウさんが刀を持ってくる。

プリンさん

その刀は？

マンボウさん  
パパ

世界に一本しかない、非常に珍しい刀じゃ。人呼んで、人魚の剣。

人魚の剣？

—————  
M12 「人魚の剣の物語」

マンボウさん

今から何千年も昔、人魚は世界中にたくさんいたんじゃ。人魚は海の中で、人間は陸の上で、それぞれ幸せに暮らしていた。ところが、人間の中には悪いことを考えるヤツがいて、海に入って人魚を捕まえ始めたんじゃ。人魚の鱗は宝石よりも美しい。そいつを手に入れるために、人魚を捕まえて殺したんじゃ。人魚の数はだんだん少なくなっていく。困った人魚は、自分たちを守るために、この剣を作ったんじゃ。

マンボウさん

嵐がだんだん近づく夜 浜辺を歩いていると  
湿った風に乗って 遠くから聞こえてくる

マップ

誰かの呼ぶ声 怒って呼ぶ声  
それは人魚 人魚が叫んでる  
もう二度と人なんか信じないと

それは人魚 人魚が叫んでる  
私の好きな人を返してと

マンボウさん

この剣は、人魚たちが自分の鱗を溶かして作ったものじゃ。自分たちの仲間を殺した人間に対する、強い憎しみが込められている。じゃから、この剣は強い。世界中のあらゆるものを真つ二つにすることが出来る。鉄でも岩でも、この剣で切れないものは何一つない。が、それはあくまでも、いいことに使う時の話じゃ。悪いことに使おうとしたら、この剣は何も切れない。人魚の剣は、使う人間を選ぶんじゃ。

マンボウさん

嵐がとうとうやってきた夜 浜辺を歩いていると  
激しい風に乗って 遠くから聞こえてくる

マブパツ

誰かの呼ぶ声 悲しく呼ぶ声  
それは人魚 人魚が泣いている  
もう二度と私を裏切らないで  
それは人魚 人魚が泣いている  
もう一度あなたを信じたいから

ツヨシ

へえ、人魚の剣って、そんなに強いんですか。

マンボウさん

私に？

マンボウさん

人魚の剣は使う人間を選ぶ。あなたなら、きっと使いこなせるじゃろう。

ツヨシ

さあ、パパさん、行きましょう。  
ママたちを助けに行くんだね？  
わかった。行こう。でも、まだちよつと怖いな。

マンボウさん　　しようがないな。ワシも一緒に行ってやるか。  
プリンさん　　さあ、出発よ。

プリンさん・パパ・ツヨシ・マンボウさんが去る。

海賊ハック・子分たち・トビウオさん・部下たち・亀吉がやってくる。

海賊ハック  
亀吉  
海賊ハック  
亀吉  
海賊ハック  
亀吉  
海賊ハック  
亀吉  
海賊ハック  
トビウオさん  
海賊ハック  
トビウオさん  
トビウオさん

ほら、サッサと歩け。  
これ以上、早くは歩けねえ。  
おまえを見てると、こっちまでイライラしてくるぞ。  
オラはちっともイライラしねえ。  
いいから、もつとスピードを上げる。  
無理を言っちゃいけない。昔から、カメは足が遅いって決まってるんだ。  
そんなのんびりしたこと言ってるから、ウサギに負けるんだ。  
おめえ、昔話を知らねえな？ ウサギは途中で居眠りをしたんだ。で、  
最後はオラが勝ったんだ。  
海賊は、昔話なんか知らなくていいんだ。  
今のは負け惜しみだな？  
やかましい！  
僕らをどこへ連れていくつもりだ。  
みんなまとめて、海に放り込んでやる。ロープでグルグル巻きにして、  
足にでっかい重りをつけて。  
まさか、僕らを殺すのか？

海賊ハック  
トビウオさん

俺様は海賊だ。海賊に齒向かった野郎は、タダじゃおかねえ。おまえなんか、殺されるもんか。パパさんたちが、きつと助けに来てくれる。

海賊ハック

あんな男に何ができる。あいつはただの弱虫だ。

トビウオさん

パパさんのことを弱虫なんて言うな。

海賊ハック

あいつが海賊養成マシンを渡っているところを見なかったのか。唇をブルブル震わせて、今にも泣きそうだったじゃねえか。

そこへ、プリンさん・パパ・ツヨシ・マンボウさんがやってくる。

プリンさん

待ちなさい！

トビウオさん

よかった。やつぱり助けに来てくれたんですね？

マンボウさん

大丈夫か、トビウオくん。

トビウオさん

館長さんまで来てくれたんですか。ご心配をかけてすいません。

海賊ハック

せつかく逃げたのに、どうして戻ってきた。そんなに俺様にやられてえのか。

プリンさん

やられるのは、あなたの方よ。パパさん。

ツヨシ

パパ、がんばって。

パパ

トビウオさんたちを放しなさい。それから、ママたちを返しなさい。私の言う通りにしないと、痛い目に会いますよ。

海賊ハック

ずいぶん偉そうな口を叩くじゃねえか。さっきは泣きそうだったくせに。

パパ

さっきはさっき、今は今です。私は生まれ変わったんです。

海賊ハック

俺様には、同じにしか見えねえぞ。ただの弱虫にしか。

パパ  
海賊ハック  
私はもう弱虫じゃない。(と剣を構える)  
ほう。俺様に挑戦するつもりか。(と刀を構える)

—————  
M13「戦いは男のドラマ」

パパ  
あいつにだけは負けたくない  
そんなヤツが一人や二人

男にや必ずいるもんだ さあ  
負けないためには努力努力  
あいつに隠れて努力努力  
男はいつも戦っている  
愛する者を守るために

戦いはそう 男のドラマ  
女なんかにはわからない

パパと海賊ハックが戦う。

海賊ハック  
あいつになんか負けるわけない

そんなヤツがある日突然  
強くなったりするもんだ よし  
逆転するには努力努力  
悔しさをバネに努力努力  
男はいつも戦っている

愛する者を守るために  
戦いはそう 男のドラマ  
女なんかにやわからない

海賊ハックが倒れる。

海賊ハック

なぜだ。なぜ俺様が、こんなヤツに勝てねえんだ。

パパ

私は生まれ変わったんです。生まれ変わって、強くなったんです。

海賊ハック

嘘だ。人間が、そんなに簡単にそんなに強くなれるわけねえ。

パパ

さあ、もう諦めて、刀をこっちによこしなさい。

海賊ハック

そうか。その剣のせいだな？ おまえが強くなったのは、そいつのせい

なんだろう。

パパ

バレましたか。

マンボウさん

その剣は、世界で一番強いんじゃない。何しろ、人魚の鱗で作ってあるんじゃないからな。

海賊ハック

もしかして、そいつは人魚の剣か？

マンボウさん

その通り。じゃから、おまえに勝ち目はな。素直に降参した方が身の

ためじゃ。

パパ

降参すれば、ママたちを連れていったことは許してあげます。だから、

もう諦めなさい。

海賊ハックがツヨシをつかむ。

プリンさん

ツヨシ

トビウオさん

海賊ハック

トビウオさん

プリンさん

海賊ハック

トビウオさん

海賊ハック

トビウオさん

マンボウさん

トビウオさん

マンボウさん

マンボウさん

パパが人魚の剣を差し出す。海賊ハックが受け取る。

あつ！ ツヨシくん！

パパ、助けて！

ずるいぞ、海賊！ ツヨシくんを放せ！

放してほしかつたら、人魚の剣をこっちによこせ。

ダメですよ、パパさん。その剣をあいつに渡したら、たいへんなことになりませぬ。

でも、ツヨシくんを見殺しにするわけにはいかないわ。

俺様は、前から人魚の剣がほしかつたんだ。そいつをよこせば、おまえ

らは無事に逃がしてやる。

嘘だ。心の中では、僕らを皆殺しにしようと思ってるんだ。

俺様は海賊だ。海賊は嘘をつかねえ。

嘘をつかないのはインディアンだ。海賊じゃない。

パパさん、人魚の剣をあいつに渡しなさい。

でも——

ツヨシくんを助けるためじゃ。さあ。

海賊ハック

パパ

海賊ハック

トビウオさん

海賊ハック

こいつが人魚の剣か。やったぞ。ついに手に入れたぞ。

さあ、早くツヨシを放してください。

アツカンベー。

やっぱり嘘だったんだな？

おまえの言う通り、俺様はインディアンじゃねえ。俺様は海賊だ。海賊

に齒向かった野郎は、タダじやおかねえ。

海賊ハックがパパを切る。

パパ　　うわー！　やられたー！　痛いー！　死ぬー！

プリンさん　　パパさん、すっかりして！

マンボウさん　　と思つたら、全然痛くないぞ。なぜだ？

　　ワシの話を聞いてなかったのか。人魚の劍は、世界中のあらゆるものを

真つ二つにすることができる。鉄でも岩でも、この劍で切れないものは

何一つない。が、それはあくまでも、いいことに使う時の話じゃ。悪い

ことに使おうとしたら、この劍は何も切れない。

悪いヤツが持つてても、何の意味もないってことか。やーい、ザマアミ

トビウオさん　　ロ！

海賊ハック　　悔しい！（と人魚の劍を投げ捨てて）野郎ども、逃げるぞ！

プリンさん　　（人魚の劍を拾つて）待つて！　ツヨシくんを返して！

海賊ハック・ツヨシ・子分たちが走り去る。後を追つて、プリンさん・パパ・マンボウ

さん・トビウオさん・部下たちが走り去る。

亀吉　　こら！　オラを置いていくな！

亀吉が去る。

海賊ハック・子分たち・ツヨシが走ってくる。

海賊ハック

野郎ども、船を用意しろ。

イック

お頭、それは無理です。

海賊ハック

どうして無理なんだ。

ニック

だって、お頭は船なんか持っていないじゃないですか。

海賊ハック

そうだった。俺様の船は、この前の台風で沈没したんだ。それで、新し

サンク

い船を買ったために、海の家を始めたんだ。

ツヨシ

こうなったら、泳いで逃げましょう。

海賊ハック

僕は一緒に行かなくてもいいよね？

ツヨシ

おまえは大事な人質だ。沖へ出るまで、一緒に連れていく。

ツヨシ

それは困るよ。僕は5メートルしか泳げないんだ。

反対側から、プリンさん・パパ・マンボウさん・トビウオさん・部下たちが走ってくる。

プリンさん

ツヨシくん！どこへ行ったの？

ツヨシ

プリンさん！こっちだよ、こっち！

パパ

今、ツヨシの声が聞こえませんでしたか？

マンボウさん  
トビウオさん  
海賊ハック  
パパ  
海賊ハック  
プリンさん  
トビウオさん  
プリンさん  
パパ  
プリンさん  
プリンさん  
海賊ハック  
プリンさん  
プリンさん  
プリンさん

あそこじゃ。向こう岸にいるぞ。  
ツヨシくん！今、助けに行くからね！  
来るな！来たら、こいつを海に突き落とすぞ！  
やめてください！ツヨシは5メートルしか泳げないんです！  
こいつを助けたかったら、回れ右をして家へ帰るんだ！  
私たちが帰ったら、ツヨシくんはどうなるの？  
あいつのことだ。きっと殺すつもりですよ。  
ママさんたちも？  
プリンさん、なんとかしてください。  
月は？どこかに月は出てない？  
（空を見上げて）出てるけど、半分だけです。  
半分だけじゃダメなの。私の歌が月に届かないのよ。  
おい、聞いているのか！あと10数えるうちに帰らねえと、こいつを海に  
突き落とすぞ！イーチ！ニーイ！  
届くかどうかは、やってみなくちゃわからないですよ。  
わかりました。そのかわり、パパさんも一緒に歌ってくださいね。

MI4「ムーンライト・マジック」

プリン・パパ

お願い月の光よ 私の声を聞いてよ  
闇に迷った旅人に 道を教えるその光で  
私の悲しみ消して 明日はきつと  
いい日が来ると 信じていたいから

ルーナルルーナル

プリンさん さあ、マンボウさんとトビウオさんも一緒に言って。ルーナルルーナル！

プパマト ルーナルルーナル！

プリンさん (部下たちに) さあ、みんなも。ルーナルルーナル！

プパマト部 ルーナルルーナル！

プリンさん ダメだわ。やっぱり届かない。

海賊ハック ゴーオ！ ローク！

パパ プリンさん 諦めないで、もう一度、歌いましょう。

プリンさん わかりました。今度は、みんなも一緒に歌ってね。

プパマト部

お願い月の光よ 私の声を聞いてよ

家をなくした子犬に ほほえみかけるその光で

私の淋しさ消して いつかまた

あの人に会えると 信じていたいから

ルーナルルーナル

(客席に向かって) みんなも一緒に手伝って。ルーナルルーナル！

ルーナルルーナル！

(客席に向かって) もっと大きな声で。ルーナルルーナル！

キューウ！ ジュウ！ さあ、H.O 数え終わったぞ。死ね！

海賊ハック

海賊ハックがツヨシを海へ突き落とす。

パパ

ツヨシ！

パパが海に飛び込む。ツヨシの所まで泳ぐ。ツヨシの体をつかむ。

パパ

ダメだ！ もう泳げない！

そこへ、人魚の女王が現れる。パパとツヨシの手をつかむ。岸まで連れていく。

プリンさん

ツヨシくん、大丈夫？

ツヨシ

僕は大丈夫だよ。それより、パパは？

トビウオさん

パパさん、しっかりしてください！ パパさん！

パパ

私はしっかりしてますよ。しかし、もう少しでおぼれるところだった。

マンボウさん

ママ、助けくれてありがとう。

パパ

パパさん。この人は、ママさんじゃないぞ。

マンボウさん

でも、この顔は、確かにうちのママですよ。

パパ

似ているかもしれないが、別人じゃ。この人は、人魚の女王じゃ。

トビウオさん

人魚の女王？

人魚の女王

でも、この人、人間みたいに足が生えてますよ。

人魚の足が魚になるのは、海の中だけよ。そんなことより、私を呼んだ

のは、あなた？

プリンさん  
人魚の女王

そうです。女王様なら、海賊をやっつけてくれるだろうと思って。海賊って、あの人のこと？

海賊ハック

人魚の女王

久しぶりだな、人魚の女王。  
あなたと会うのは1年ぶりね、海賊ハック。あなた、まだ海賊をやっているの？

海賊ハック

人魚の女王

海賊ハック

人魚の女王が海賊ハックを切る。海賊ハックが倒れる。

わかった。もう悪いことはしねえ。海賊なんかやめるから、殺さないでくれ。

あなたが悪いことばかりするからよ。船さえなければ、海賊をやめると思ったのに。やっぱり悪いことをする人間は、人魚の剣で切るしかないよね。  
まさか、俺様を殺すつもりか。  
さあ、貸して。

お頭！

まさか、本当に殺したんですか？  
人魚の剣は、世界中のあらゆるものを真つ二つにすることが出来る。人

トビウオさん  
マンボウさん

人魚の女王  
マンボウさん  
人魚の女王

マンボウさん  
プリンさん  
マンボウさん  
人魚の女王

トビウオさん  
マンボウさん  
プリンさん  
マンボウさん

人魚の女王  
マンボウさん

魚の女王は、海賊の悪い心を真つ二つにしたんじゃ。それじゃ、海賊は死んでないんですね？

すぐに目を覚ますじゃろう。目を覚ました時は、まじめない人になつてははずじゃ。そうじゃろう、女王。

これはあなたに返します。(と人魚の剣を差し出す)

ワシが持っているも、もう使えんぞ。ワシももう年じゃからな。

でも、これはあなたのもです。私があなたにプレゼントしたんですから。

そうじゃったな。(と受け取る)

マンボウさんは、女王様と知り合いだったんですか？

まあな。

この人は子供の頃、私にお嫁さんになってくれって言ったんです。そう

言っておいて、ある日突然、いなくなつたんです。

それじゃ、伝説に出てくる男の子っていうのは？

ワシだったんじゃ。

マンボウさんは、どうして突然いなくなつたんですか？

家が引越したんじゃよ。ワシはまだ子供だったので、一人でこの

村に残るわけにはいかなかった。大人になって、一人で暮らすようにな

つてから、またこの村へ戻ってきたんじゃ。

その頃、私はもう人魚の女王になっていました。だから、もうお嫁さん

になれなかつたんです。

それで、ワシはこの村に水族館を作った。女王がいつでも遊びに来て、泊まれるようにと思つてな。

人魚の女王

でも、私は女王の仕事が忙しくて、なかなか遊びに来られません。それで、この剣をプレゼントしたんです。

マンボウさん

この剣は、夜になると歌を歌うんじや。人魚の歌をな。

マンボウさん

それじゃ、私は帰ります。また会えるかな。

人魚の女王

淋しくなったら、その剣の歌を聞いてきてください。それじゃ、さようなら。

プリンさん

さようなら、女王様。

人魚の女王

さようなら、魔法つかいさん。

パット部

さようなら、女王様。

人魚の女王

さようなら、みなさん。

マンボウさん

さようなら、亀吉さん。

人魚の女王

さようなら。

人魚の女王が去る。

—————M 15「さよならマーメイド」

人魚たちがやってくる。海の中を自由に泳ぎ、海の上を元気に飛び跳ねる。ふと夜空を見上げると、流れ星。人魚たちは、その流れ星を追いかけるように、沖へと泳ぎ去る。反対側から、プリンさん・ツヨシ・マンボウさん・トビウオさん・部下たち・亀吉がやってくる。

プリンさん

マンボウさん、どうして黙ってたんですか？

マンボウさん

何を？

プリンさん

人魚の伝説に出てくる男の子が、マンボウさんだってことをですよ。

マンボウさん

ワシが正直に話をしたら、君は信じてくれたかな？

トビウオさん

信じるわけじゃないですよ。人魚と恋をした男の子が、実はこんなハゲ親父

マンボウさん

だったなんて、あんまりじゃないですか。

マンボウさん

失礼な。あの頃のワシは、まだハゲてなかったぞ。

プリンさん

その剣はどうするんですか？

マンボウさん

ワシだけのものにしておくのはもったいない。マーメイド水族館の宝物

トビウオさん

にするさ。それはいい。マーメイド水族館のマーメイドっていうのは、人魚って意

プリンさん  
マンボウさん

プリンさん

味ですからね。  
その剣が歌う歌、私も聞いてみたいな。  
聞きたかったら、いつでも遊びに来なさい。今、どうしても聞きたいと言うなら、かわりに私が――  
わかりました。必ず遊びに行きます。

そこへ、パパ・ママ・トラコ・クマコがやってくる。

ツヨシ  
ママ

あつ、ママ！  
ツヨシ！話はパパから聞いたわ。海賊に捕まって、ひどい目に会わされたんですって？

ツヨシ  
ママ  
パパ

海へ落とされたんだ。でも、パパが助けてくれたから、平気だった。さすがはパパね。イルカと競争して勝つただけのことはあるわ。  
みんな聞いてくれ。パパは今まで嘘をついていた。イルカと競争して勝つたとか、1万メートル泳げたとか言ったのは、全部嘘だった。

ママ  
パパ

嘘？  
パパは、本当は1メートルしか泳げないんだ。でも、本当のことを言うのが恥ずかしくて、つい見栄を張ってしまったんだ。今まで騙してて、ごめん。

ツヨシ  
パパ  
ツヨシ  
プリンさん

パパは1万メートル泳げるよ。  
いや、泳げない。1メートルがやっとなんだ。  
でも、僕を助けてくれた時は、1メートル以上泳いだじゃないか。  
そうですね。少なくとも、5メートルは泳いでましたよ。

パパ  
プリンさん

あの時は、無我夢中だったから。  
ツヨシくんを助けたいと思って、必死になって泳いだんですね。大切なのは、泳ぐことを怖がったりしないので、一生懸命ががんばることなんですよ。

ママ

もちろん、嘘をつくのは悪いことよ。でも、パパは自分から正直に謝った。だから、許してあげようじゃない。

ツヨシ

パパは嘘なんかついてない。今のパパなら、きっと1万メートル泳げるよ。

ママ

ツヨシもパパを見習わなくちゃね。

ツヨシ  
ママ

僕もがんばるよ。がんばれば、きつともっと泳げるようになると思うよ。よし。今夜はホテルに泊まって、明日の朝から特訓ね。それにしても、おなかが空いたわね。どこかに食事ができるお店はないかしら。

そこへ、海賊ハックと子分たちがやってくる。「海賊屋」と書いたハッピを着ている。

海賊ハック

いらっしやいませ。

ママ

キヤー！ 海賊よ！

トラコ・クマコ

ママ、怖い！  
さては、復讐しに来たな。館長さん、人魚の剣を貸してください。

トビウオさん

違いますよ。私はもう海賊じゃありません。

海賊ハック

何を言ってるんだ。そこにちゃんと「海賊」って書いてあるじゃないか。

トビウオさん  
海賊ハック

「海賊」じゃなくて、「海賊屋」です。海賊からはキレイさっぱり足を洗って、まじめに海の家をやることにしたんです。よろしかったら、ウ

ママ

マンボウさん

海賊ハック

ママ

パパ

プリンさん

「M16」  
「勇気があれば」

「あの店で、お食事はいかがですか？  
そんなこと言うつもりで、食事が終わったら、身ぐるみ脱いでトットと失せろって言うつもりでしょう。  
いや、こいつの言うことは本当じゃ。こいつは、悪い心を真っ二つにさ  
れて、まじめないい人に生まれ変わったんじゃ。  
ですから、ぜひうちの店で食事をしていただくさい。オードリー・ヘ  
プバーンにそっくりなお嬢さん。  
さあ、みんな。このお店でごはんを食べるわよ。  
明日の特訓のために、たくさん食べて栄養をつけるか。  
そうですね。明日もまた、一生懸命がんばれるように。」

プリンさん

みんな

パパ

「なんでも初めてやる時は  
胸がドキドキするものさ  
逃げたくなるのはわかるけど  
覚悟を決めてやるしかない  
勇気 勇気 勇気があれば  
この広い空を飛べるかもしれない  
勇気 勇気 勇気があれば  
あの子に好きだと言えるかもしれない  
なんでも一人でやる時は」

みんな

みんなの視線が気になるさ  
カッコつけたら失敗する  
素直な気持ちでやるしかない  
勇気 勇気 勇気があれば  
この広い空を飛べるかもしれない  
勇気 勇気 勇気があれば  
あの子に好きだと言えるかもしれない

海賊ハック・パパ・ママ・マンボウさん・トビウオさんが去る。

プリンさん

誰でも失敗した時は  
顔が真っ赤になるものさ  
言い訳なんかしないでいい  
今度はきつとうまくできる  
勇気 勇気 勇気があれば  
この広い空を飛べるかもしれない

トクツ子部亀

勇気 勇気 勇気があれば  
あの子に好きだと言えるかもしれない

トラコ・クマコ・ツヨシ・子供たち・部下たち・亀吉が去る。プリンさんだけが残っている。

トンガリぼうしの魔法つかいたちがやってくる。

———M「トンガリぼうしの魔法つかい」

魔法つかいたち

白い月が昇ったら

窓を開けて 夜空を見上げて

ほら トンガリぼうしが通り過ぎる

悲しい寝顔の女の子には

そつと笑顔の魔法をかける

私は月の魔法つかい

トンガリぼうしの魔法つかい

プリンさん

これで私の話はおしまい。みなさん、どうでしたか？ ツヨシくんのパ  
パさん、偉かったわね。最初は嘘をついたけど、最後は自分から正直に  
謝ったんだもの。人間なら誰だって、怖いものはある。でも、怖いから  
って逃げてちゃダメ。パパさんみたいに勇気を出して、立ち向かってい  
かなくちゃ。一生懸命がんばれば、何だってできる。水泳だってできる  
ようになるし、鉄棒だって算数だってできるようになる。ツヨシくんと

海へ行って、私はそんなことを考えました。それではみなさん、さようなら。また会える日を楽しみに待っています。

魔法つかいたち

青い屋根を飛び越えて

忘れた夢 届けに行こう

さあ トンガリぼうしが舞い降りる

ひとりぼっちの男の子には

楽しいお話 聞かせてあげる

私は月の魔法つかい

トンガリぼうしの魔法つかい

魔法つかいたちが去る。あたりが次第に明るくなっていく。夜明けの時間だ。それでも、月は白く輝いたままだ。

∧ 幕 ∨